

サントリー食品インターナショナル(株)の

地球環境と共生する事業活動への取組み

「CDPP2014 Japan500」における「CDLI」「CPLI」ダブル選定

サントリー食品インターナショナルは、この度温室効果ガス排出量の削減及び気候変動リスクの緩和に対する活動と気候変動情報開示に対する活動において、「CDP」から高い評価を受け、気候変動情報開示先進企業「Climate Disclosure Leadership Index (CDLI)」及び、気候変動パフォーマンス先進企業「Climate Performance Leadership Index (CPLI)」に選定された。

CDPは企業や都市の重要な環境情報を測定・開示・管理・共有するための国際NPOで、合計92兆米ドルの資産を持つ767の機関投資家を代表して、全世界で6000社以上、日本企業500社を対象に気候変動情報開示を求める質問書を送付し、その回答をもとに評価を行い、

開示に優れた企業をCDLIの取組み実績に優れた企業をCPLIとして公表している。

CDLI(28社の内の1社)・99点
CPLI(24社の内の1社)・パフォーマンスバンドA
今回CDLI・CPLIの両方に選定された企業は15社

同社は自然の恵みに支えられている企業の責務として、「自然環境の保全・再生」「環境負荷低減」を柱に、持続可能な社会づくりに貢献するために、サントリーグループが策定した『環境ビジョン2050』のもと、『2020年目標』を設定し、様々な環境負荷低減活動を行っている。『2020年目標』で、自社工場における製造設備・容器の洗浄や冷却

に使用する水使用を42%削減し、容器の更なる軽量化や植物由来原料の活用、国内最小電力量の自動販売機の積極的導入などにより、バリユーチェーンのCO2排出を25%削減するとしている。

今回の「CDP2014 Japan500」での選定は同社の環境負荷低減活動や環境経営情報開示に対する取り組みが評価されたものであり、『水と生きる』企業グループとしての今後の環境経営がより一層期待される。

「循環型社会形成功労者環境大臣賞」受賞

サントリー食品インターナショナル(株)は環境省主催の第9回3R全国大会において、平成26年度「循環

型社会形成功労者環境大臣賞」を受賞した。この賞は環境省によって平成18年度に設けられた制度で、廃棄物の発生量の抑制(リデュース)、



社員が森林整備を体験している様子

再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）の適切な推進に顕著な功績があった個人、企業、団体を表彰し、その功績を讃えて循環型社会の形成の推進に資する事を目的としている。今年度の表彰は10月29日（水）に開催され、3企業の内1社に選出された。

**「リユース・リユース・リサイクル
推進協議会会長賞」受賞**

これは同社の3Rの考え方に基いた容器包装の環境負荷低減の取り組みが高く評価されたものであり、左記が主な評価のポイントとなった。



**【分別・リサイクルしやすい
国産最軽量ボトルの開発】**

2013年2月導入の国産最軽量クラスの2.9. 8gの2Lペットボトルに加え同年5月には国産最軽量 の11. 3gの「サントリー天然水」550ml（自動販売機対応商品は除く）の独自開発。ペットボトルを導入し、大容量・小容量ともに国産最軽量クラスを実現した。又同年12月には「サントリー天然水」以外の「伊右衛門」「サントリーウーロン茶」等11製品にも国産最軽量クラスの31. 3gとなる2Lペットボトルを導入。軽量化することで飲用後により簡単に手づぶせるペットボトルとなった。

※2015年3月末時点。サントリー調べ。

**【国産最薄ラベルの更なる薄肉化
（12μmのロールラベル導入）】**

再生PET樹脂を60%使用した18μmの商品ラベルの2010年秋からの採用を皮切りに再生PET樹脂の混合率を60%から80%に引き上げ、更に国産最薄となる16μmの商品ラベルを2012年5月

より実用化することで更なる環境負荷低減を目指した取り組みを展開している。2014年4月より更に4μm薄肉化した12μmの国産最薄 の商品ラベルを実用化し、「サントリー天然水」に導入した。

※2015年3月末時点。サントリー調べ。

サントリー食品インターナショナル

ナルグループは今後も環境負荷低減活動推進のため、容器包材のユーザビリティに配慮しながら、軽量化や環境負荷の少ない素材の採用を実施し、国内外において次世代に持続可能で豊かな地球環境を引継ぎ、自然との共生を実現すべく積極的な環境経営に取り組んでいく。



良質な地下水を育む「天然水の森」